

新型コロナウイルス蔓延による 短時間デイサービス欠席者への 影響に関する緊急調査報告書

Analysis & Report

2020/07/22



一般社団法人
日本デイサービス協会

【共同調査研究】

日本デイサービス協会 研究部会

京都大学大学院医学研究科医療経済学分野 介護研究グループ^o

新型コロナウイルス蔓延による 短時間デイサービス欠席者への影響に関する緊急調査

本調査の背景・目的

COVID-19禍で、本邦のデイサービス特に短時間デイサービスでは
欠席者数が一時的に急増した。

そこで、COVID-19禍における短時間デイサービスの欠席が
利用者に及ぼす影響を検証することを目的として緊急調査を実施した。

評価方法

調査対象

本協会会員6法人の短時間デイサービス*利用者のうち
2020/2/28~6/3の間で1週間以上欠席した利用者

評価項目

BI、握力（左右）、開眼片足立ち（左右）、CS-30、TUG
※BI、CS-30、TUGについては、次頁で解説

解析1

上記項目について以下2回（欠席前後）の測定値を比較
I）欠席前:2019/9/1~2020/2/28の測定値
II）欠席後:2020/5/18~6/3の測定値（欠席中もしくは復帰日に測定）

解析2

通常時のデイサービス利用者のTUGの変化との比較
通常時（2018年4月~2020年2月）のデイサービス利用者について、
期間内の「直近のTUG値」と「3か月前のTUG値」を集計し、平均値を算出
通常時のTUGの変化と、本調査での欠席前後の変化を比較

※上記の解析における検定は、すべてウィルコクソンの符号順位検定を用いた。

*短時間デイサービス：
午前と午後に(それぞれ3時
以上4時間未満もしくは4時
間以上5時間未満)、機能
訓練に注力した自立支援に
資するサービスを提供するデ
イサービス

BI

BI（バーセルインデックス）とは、ADL（日常生活動作）の評価法の一つ。身辺動作と移動動作の全10項目（「食事」「車いすからベッドへの移動」「整容」「トイレ動作」「入浴」「歩行」「階段昇降」「着替え」「排便コントロール」「排尿コントロール」）について、各項目を0・5・10・15点で評価する。点数が高いほど良い状態であることを示す。

CS-30

CS-30（Chair-stand test）測定は、椅子に座った状態から、30秒間にできるだけ多く起立-着座動作を繰り返す評価法。回数が多いほど良い状態であることを示す。

TUG

Timed Up & Go Test(TUG)では、椅子に深く座った状態から始め、椅子から立ち上がり、無理のない速さで歩き、3m先の目印で折り返し、再度椅子に座るまでに要した時間を測定する。短い時間であるほど良い状態であることを示す。転倒・骨折の危険性を早期に発見し、適切なリハビリテーションを行うことに繋げることが出来る。

結果① 解析対象者の属性 その1

性別、年齢、要介護度別の対象者数

調査期間中の欠席者（1036件）のうち、欠席前データ（1044件）とIDで紐づけができ、欠席日数が1週間未満の者と北海道の緊急事態宣言（2020年2月28日）以前に欠席を開始した者を除いたデータ（741件）を解析対象とした。

性別	人数	割合
女性	569	77%
男性	172	23%

要介護度	人数	割合
事業対象者	46	6%
要支援1	183	25%
要支援2	181	24%
要介護1	176	24%
要介護2	114	15%
要介護3	33	4%
要介護4	8	1%

年代	人数	割合
65歳未満	12	2%
65 - 69歳	15	2%
70 - 74歳	65	9%
75 - 79歳	99	13%
80 - 84歳	283	38%
85 - 89歳	147	20%
90 - 94歳	115	16%
95歳以上	5	1%

結果② 解析対象者の属性 その2

居住形態別、利用頻度、欠席日数別の対象者数と参加法人・事業所数

居住形態

	人数	割合
子どもと同居	334	45%
夫婦のみ	136	18%
施設入居	31	4%
独居	239	32%
その他	1	0%

利用頻度

(週あたり)

	人数	割合
1回	421	57%
2回	288	39%
3回	31	4%
5回	1	0%

欠席日数

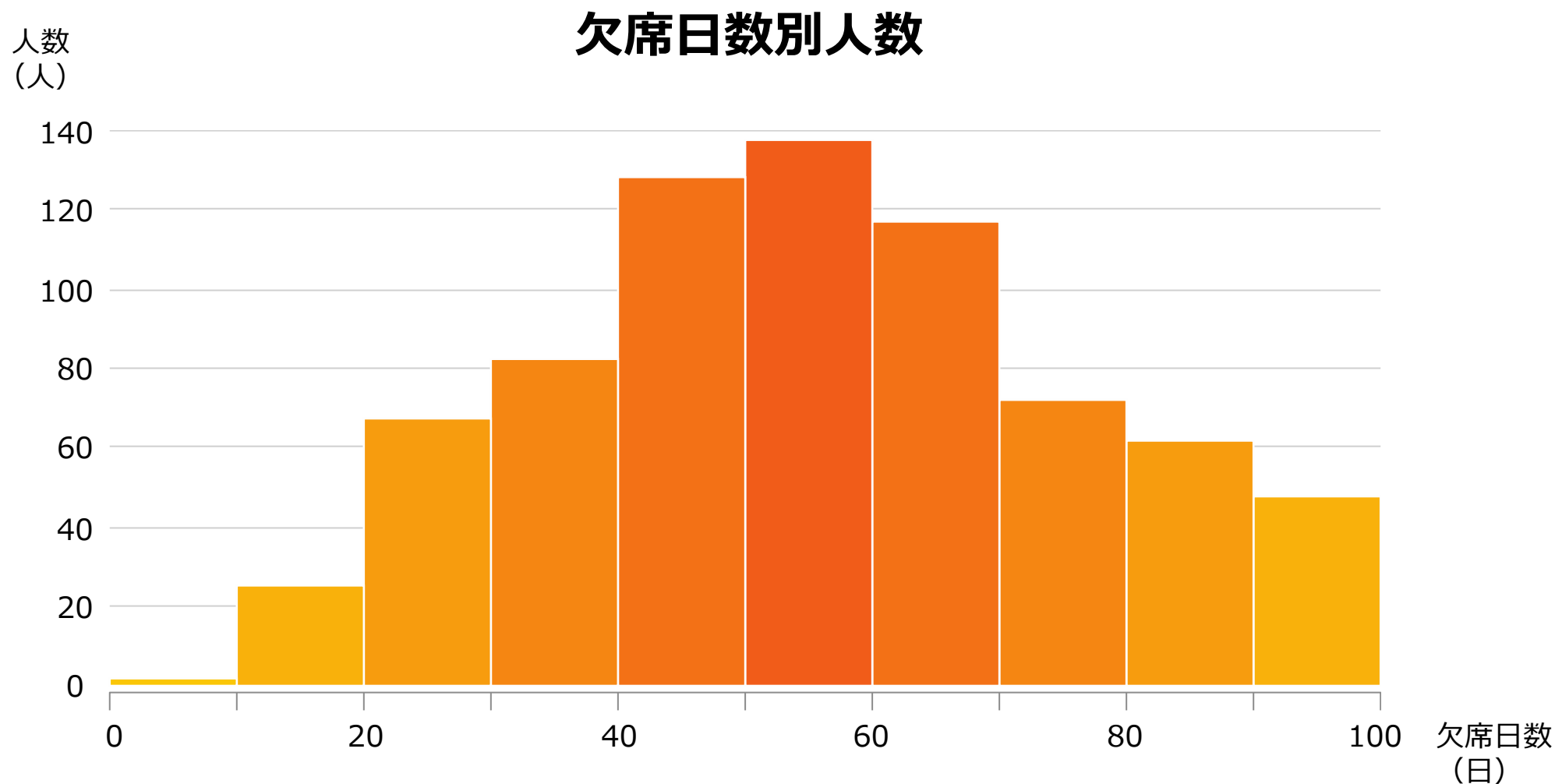
	人数	割合
1週目 - 4週以内	81	11%
5週目 - 8週以内	301	41%
9週目 -	359	48%

参加法人・事業所数

	数
法人	6
事業所	144

結果③ 解析対象者の欠席日数

欠席日数は平均56.1日（最小8日、最大98日）。



結果④ 解析対象者の測定項目別人数

BIおよび体力測定の商品別有効回答数

測定項目別有効回答数

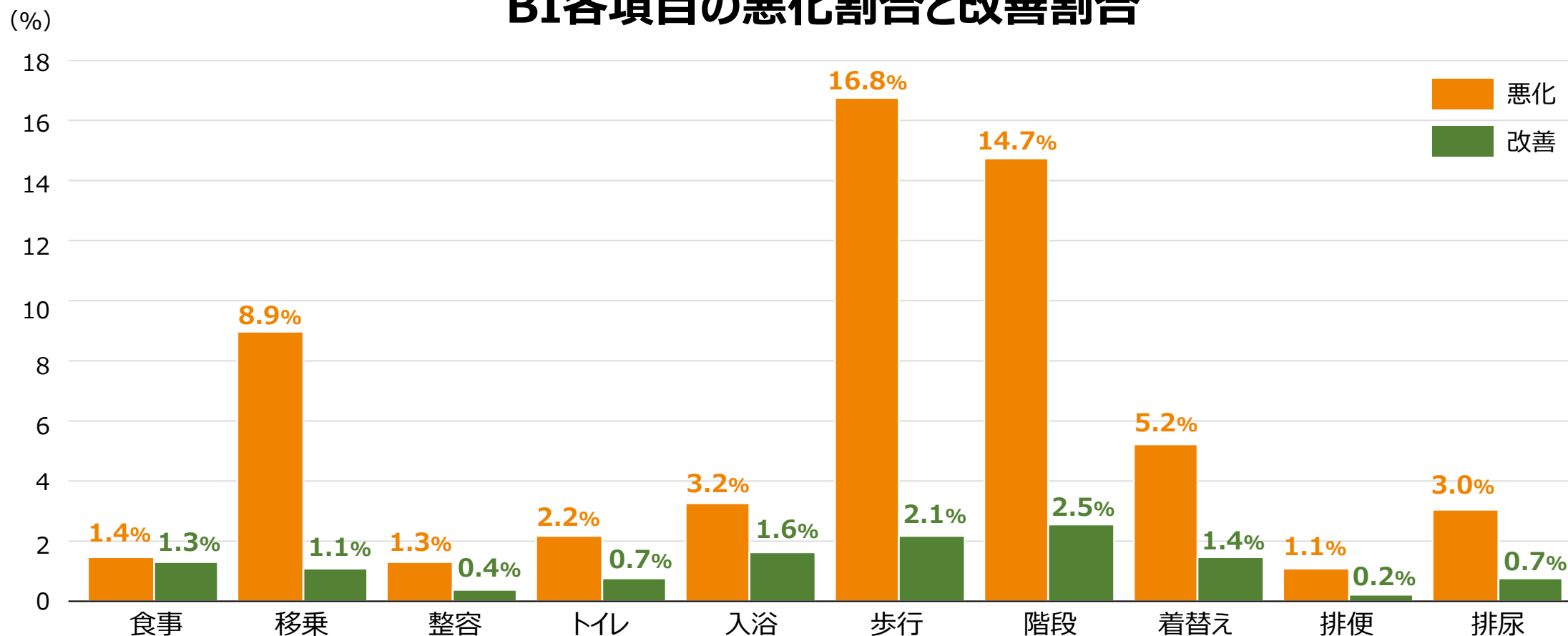
測定項目	有効回答数	全体の割合
BI ※	517	69.8%
TUG	514	69.4%
CS-30	140	18.9%
握力（右）	385	52.0%
握力（左）	387	52.2%
片足立ち（右）	174	23.5%
片足立ち（左）	174	23.5%

※BIは、複数項目あるが、いずれか一つでも入っているものを対象とした

結果⑤ BI項目別の悪化割合と改善割合

日常生活動作では、欠席の前後で、歩行・階段昇降・移乗において特に悪化している割合が高かった。

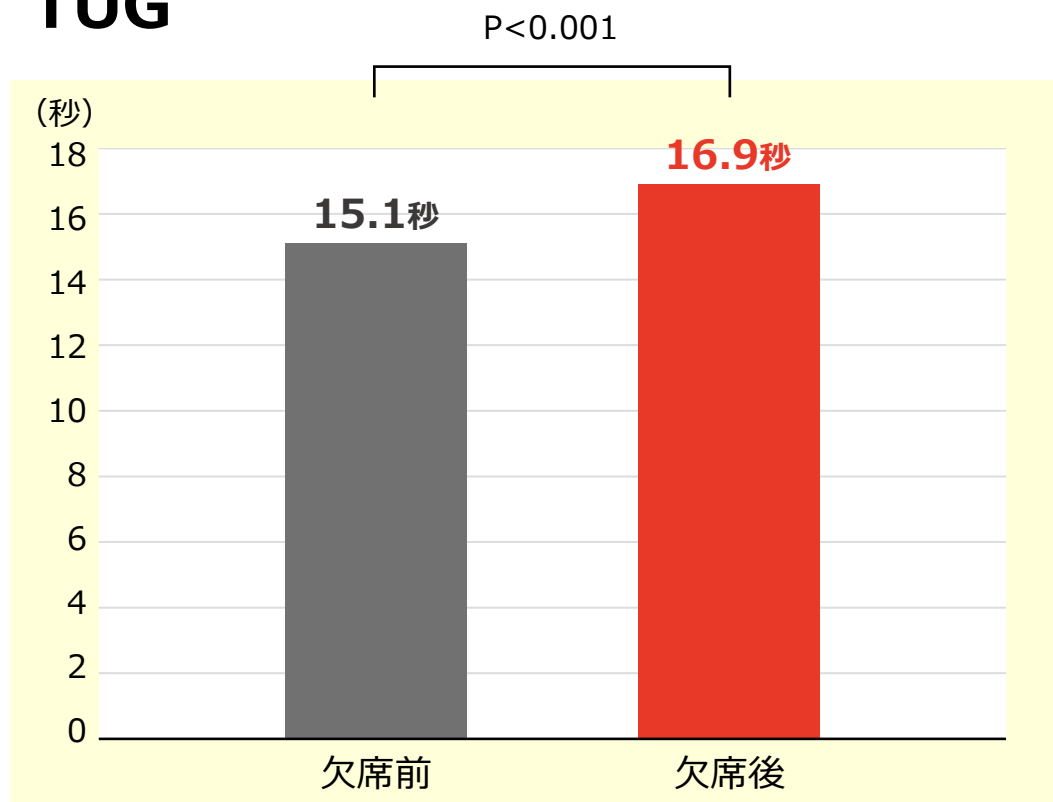
BI各項目の悪化割合と改善割合



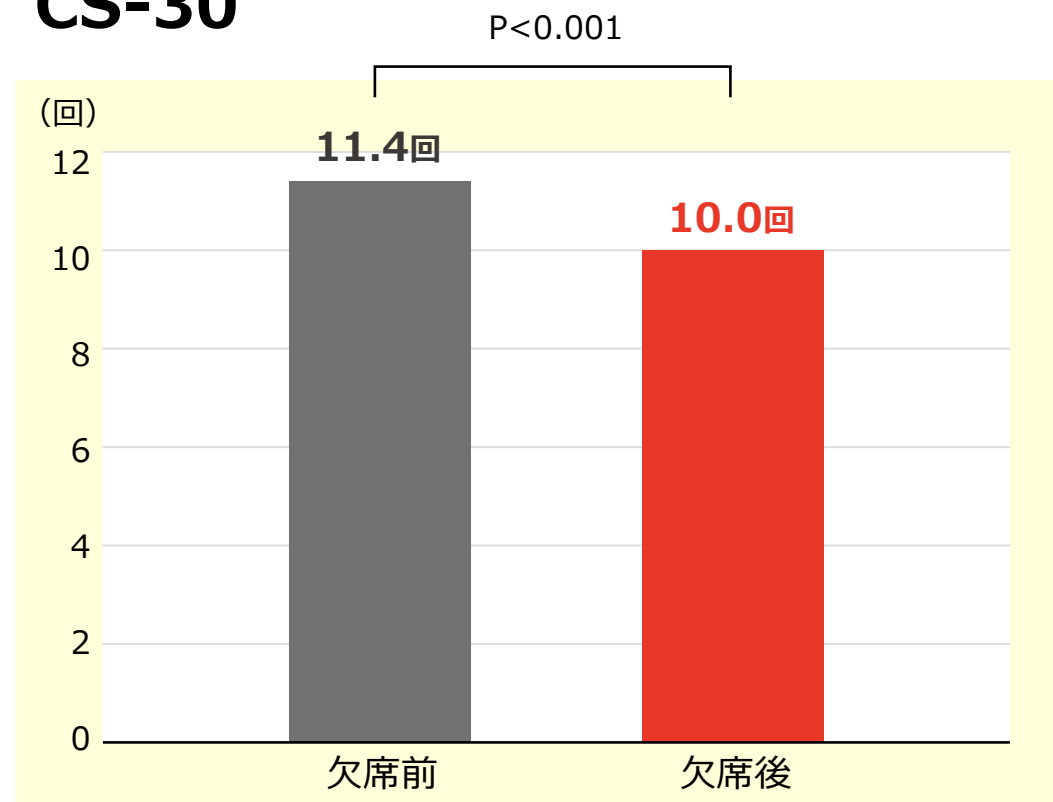
結果⑥ 欠席前後の体力測定値の比較（平均値） その1

TUG、CS-30では、欠席後に有意に悪化する傾向が見られた。

TUG



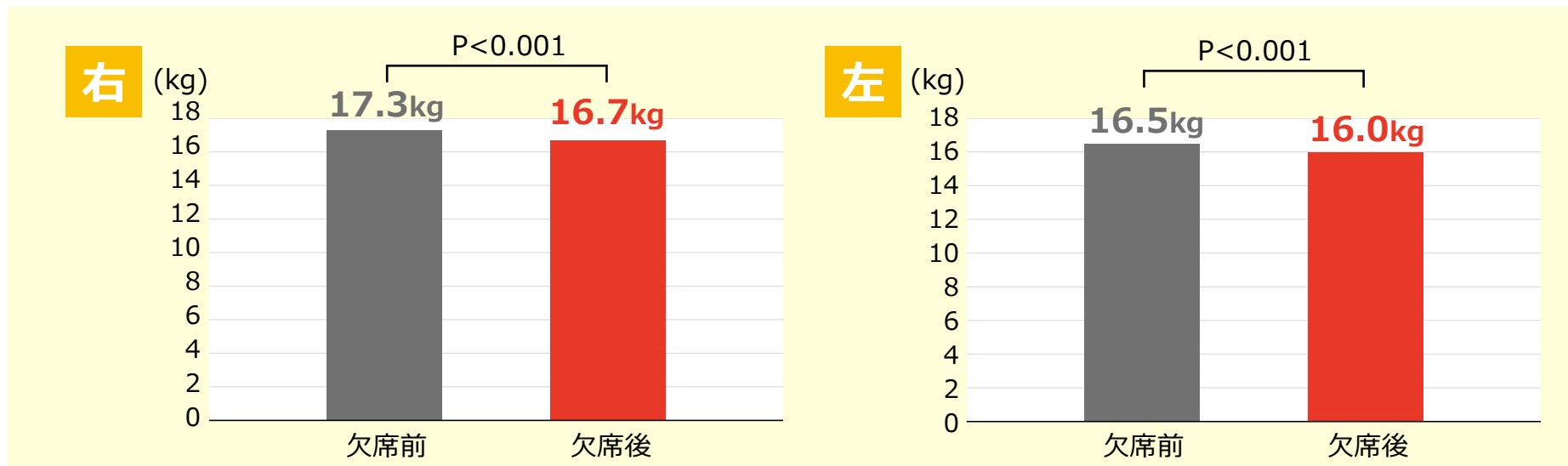
CS-30



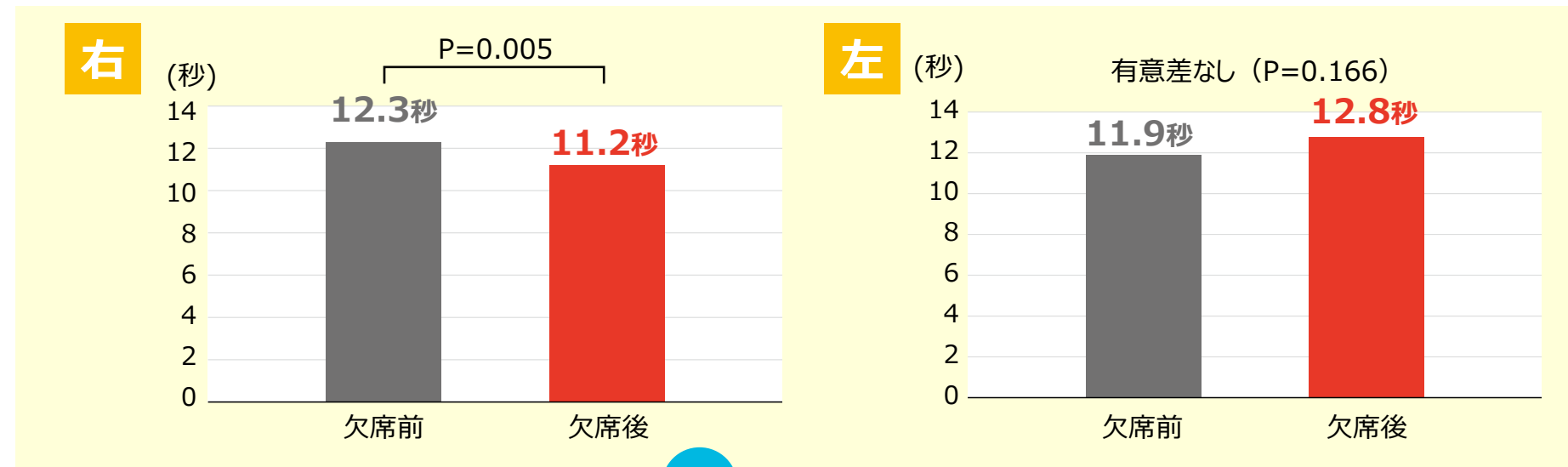
結果⑥ 欠席前後の体力測定値の比較（平均値） その2

握力、片足立ちでも、欠席後に有意に悪化する傾向が見られた（片足立ち(左)を除く）。

握力



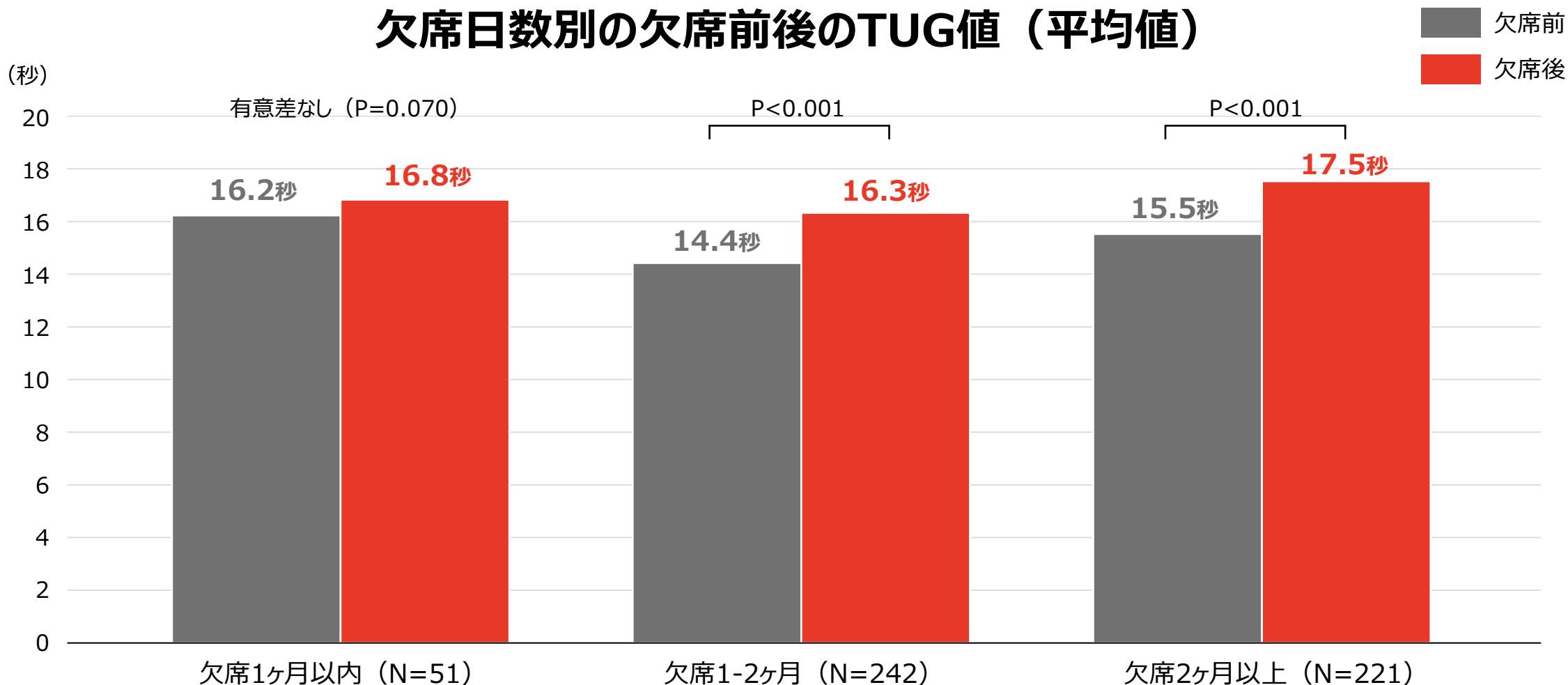
片足立ち



結果⑦欠席日数別の欠席前後でのTUG値の比較（平均値）

欠席日数が1カ月以上に及ぶと有意に悪化する傾向。

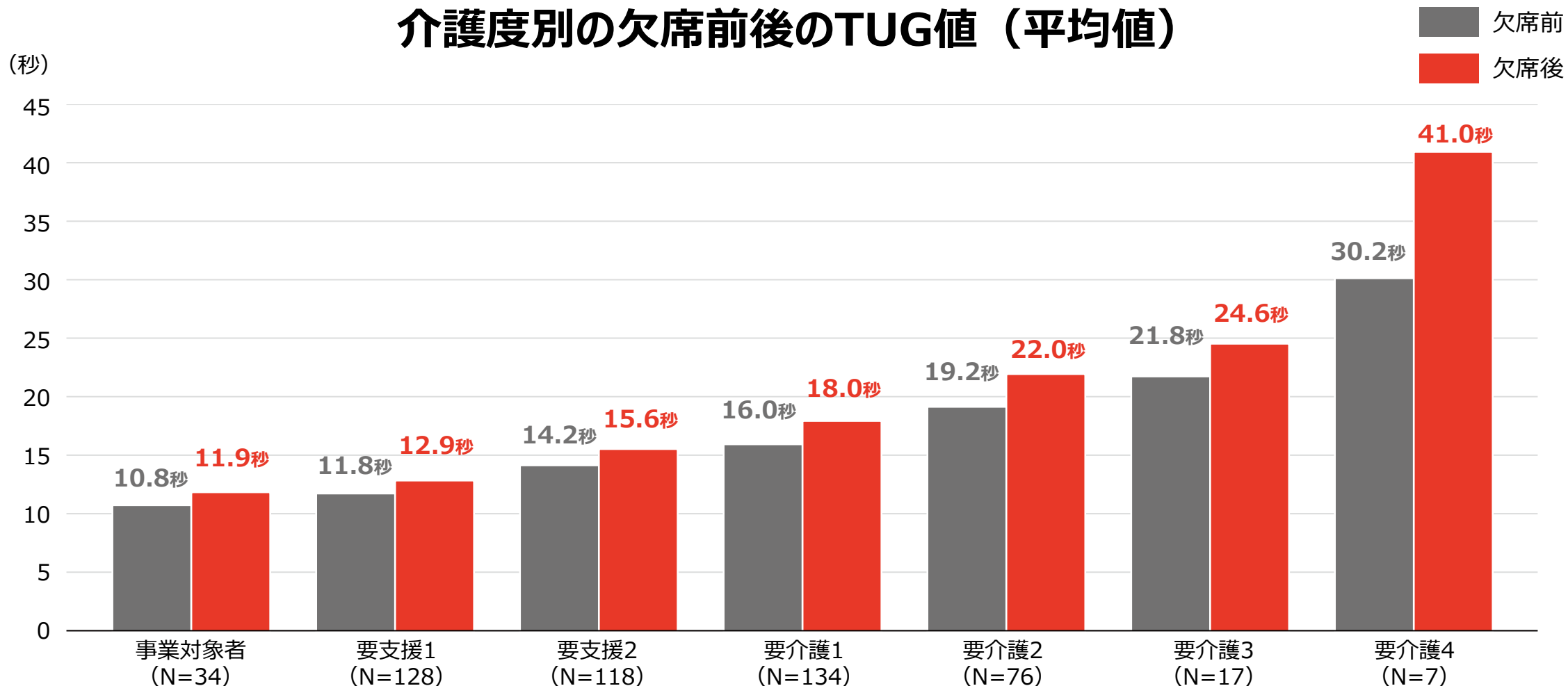
欠席日数別の欠席前後のTUG値（平均値）



結果⑧ 要介護度別の欠席前後のTUG値の比較（平均値）

要介護度が高いほど、欠席前後のTUG値の差（悪化状況）は拡大する傾向。

介護度別の欠席前後のTUG値（平均値）

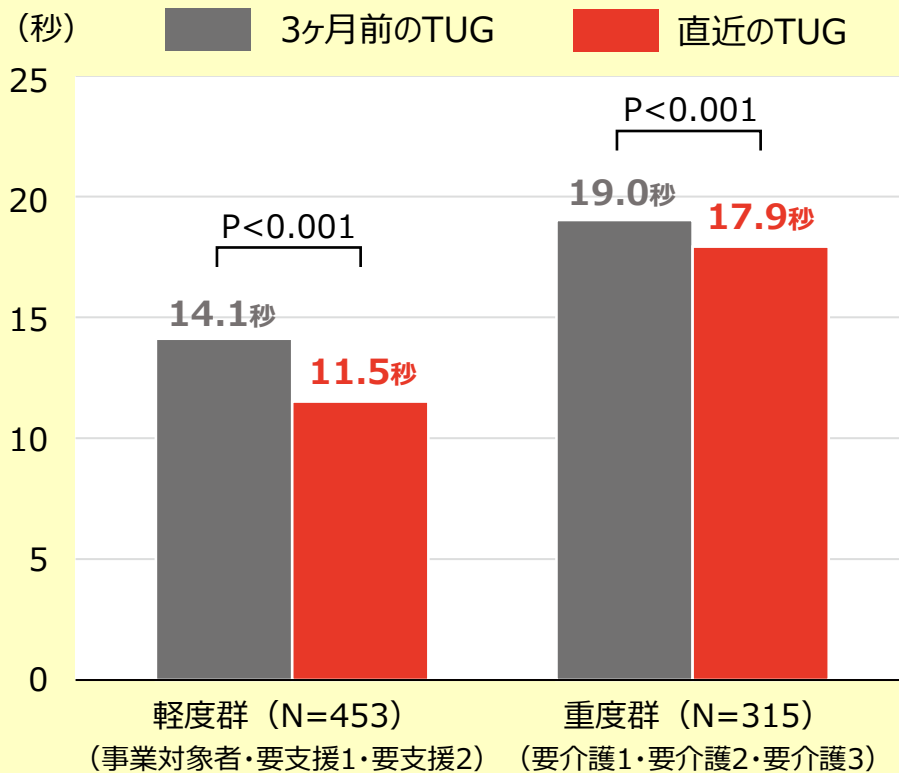


結果⑨ TUG値の変化：通常時と長期欠席時の比較

通常時のTUG値は改善傾向

参考

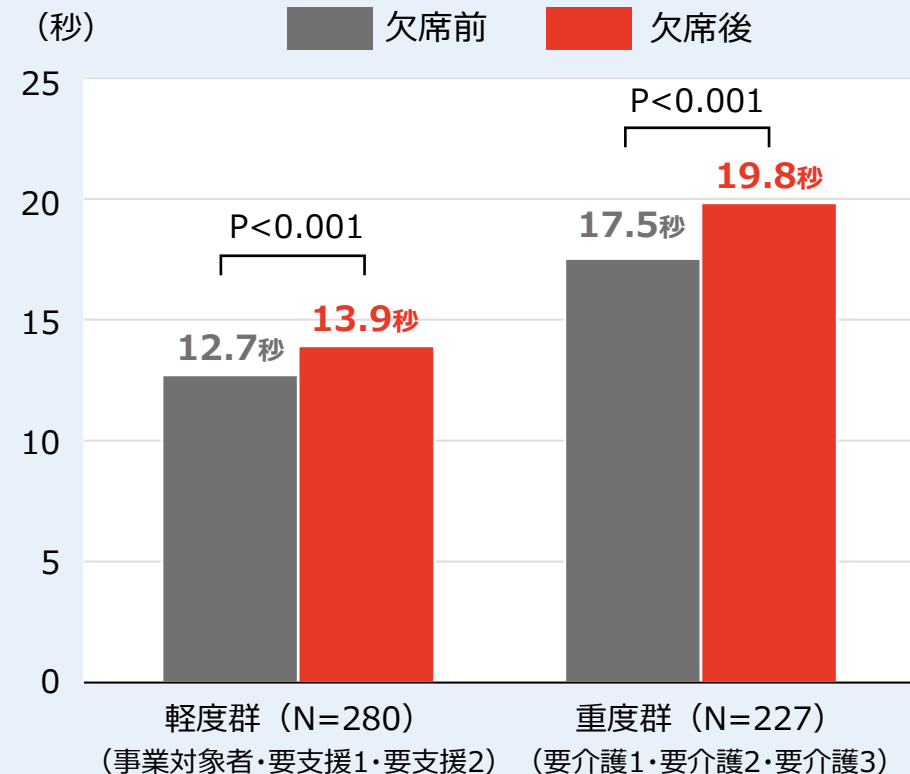
通常時（2018年4月～2020年2月）における
デイサービス利用者の3ヶ月間のTUGの変化



長期欠席後のTUG値は悪化傾向

本調査

欠席前後のTUG値の変化
(欠席日数の平均値は約56日)



COVID-19禍における短時間デイサービスの欠席による利用者への影響について検証するため、一般社団法人日本デイサービス協会会員6法人にて1週間以上欠席した利用者（計741名）のBIおよび体力測定値（握力／開眼片足立ち／CS-30／TUG）を欠席前後で比較したところ、次の4点が確認された。

① BIおよび体力測定値（握力／開眼片足立ち／CS-30／TUG）のいずれにおいても、欠席前に比べ欠席後は悪化する傾向が見られた。

② BIのいずれの項目（食事・移乗・整容・トイレ・入浴・歩行・階段昇降・着替え・排便／排尿コントロール）において、とくに歩行・階段昇降・移乗といった相対的に大きめの動作で、悪化傾向がみられた。

③ 欠席日数が1カ月以上に及ぶと、また介護度が高くなるほど、TUGの悪化傾向は強まっていた。

④ 本調査では、欠席後に有意に悪化する傾向がみられた。一方で、通常利用時のTUG値（直近と3か月前の比較）は、有意に改善する傾向が確認された。すなわち、デイサービスの利用で身体機能の維持・改善が期待されるどころ、COVID-19蔓延による長期欠席により身体機能は悪化していたことが明らかになった。